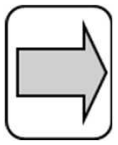
管内経済情勢報告

令　和　5　年　4　月

財 務 省 四 国 財 務 局

四国財務局管内経済情勢報告

	令和5年1月判断	10月判断との比較	令和5年4月判断	総括判断の要点	1月判断との比較
総括判断	緩やかに持ち直している	 （２期ぶり上方修正）	緩やかに持ち直している	個人消費は、スーパーが底堅い状況のなか、百貨店が緩やかに持ち直しつつあるほか、観光も緩やかに回復しつつあることなどから、全体としては緩やかに持ち直している。 生産活動は、化学が足踏みの状況にあるほか、電気機械、パルプ･紙が弱含んでいることなどから、全体としては弱含んでいる。 雇用情勢は、緩やかに持ち直している。	 （据え置き）

〔先行き〕
先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。
ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

項目	令和５年１月判断	10月判断との比較	令和５年４月判断	1月判断との比較
個人消費	緩やかに持ち直している		緩やかに持ち直している	
生産活動	横ばいの状況にある		弱含んでいる	
雇用情勢	緩やかに持ち直している		緩やかに持ち直している	
公共事業	前年度を下回っている		前年度を下回っている	
住宅建設	前年を下回っている		前年を上回っている	
設備投資	4年度は前年度を上回る見込み		４年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	4年度は増益見込み		４年度は増益見込み	

※　5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

個人消費

<u>個人消費</u>
緩やかに持ち直している

（据え置き）

○スーパーは、衣料品等に持ち直しの動きがみられるほか、飲食料品が底堅いことから、全体としては底堅いものとなっている。

○コンビニエンスストアは、酒類を含む飲料品や米飯類等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。

〔主なヒアリング結果〕

«スーパー»
○外出機会の増加によって衣料品や化粧品等の売れ行きがよい。特に、入学式や卒業式を通常どおり開催する教育機関が増えたためセレモニースーツの売上が伸びた。

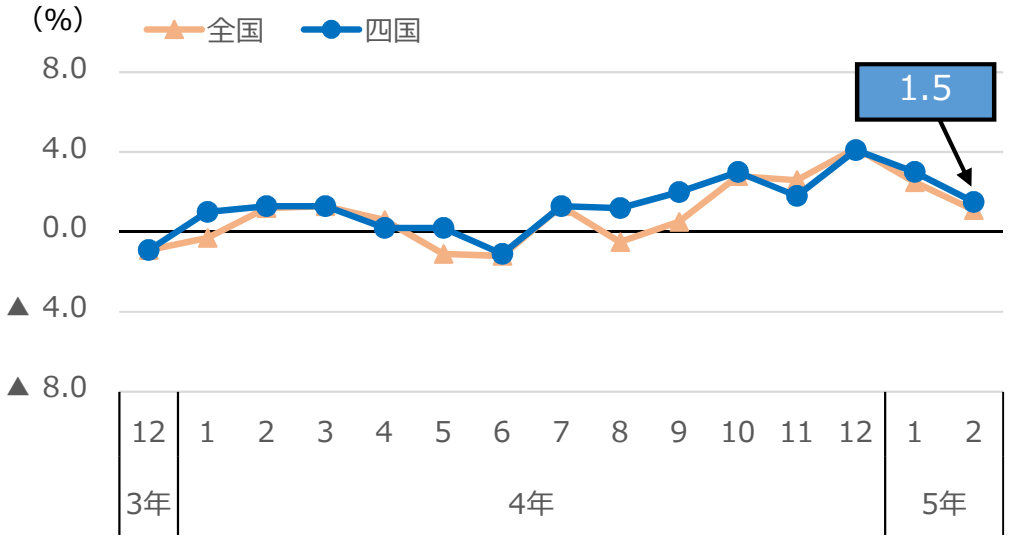
○節約志向の高まりを背景に、牛肉よりも、比較的割安感のある鶏肉を選ぶ消費者が増えている。

○冷凍食品の売上が伸びている。特に、昼食代を節約するため自宅で弁当を作る方が増えていることから、弁当に使いやすい商品が人気となっている。

«コンビニエンスストア»
○行楽需要や観光客の増加などを背景に来店客数が増え、おにぎりやパン類、ペットボトル飲料などの売上が伸びている。

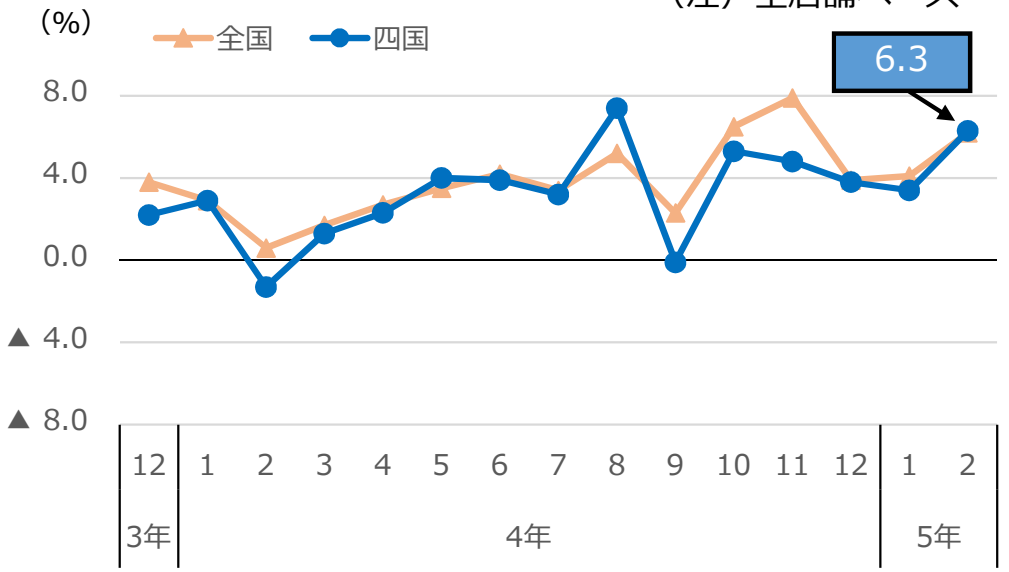
○県内で宿泊する観光客が増えており、宿泊施設周辺の店舗を中心にアルコール飲料の売上が伸びた。

〔スーパー販売額（前年同月比）〕　（注）全店舗ベース



〔コンビニエンスストア販売額（前年同月比）〕

（注）全店舗ベース



【出所】経済産業省、四国経済産業局

個人消費

○ドラッグストアは、飲食料品や医薬品が順調であるほか、化粧品に動きがみられることから、全体としては順調となっている。

○家電大型専門店は、省エネ性能の高い冷蔵庫や洗濯機等に動きがみられるものの、テレビやレコーダー等の動きが鈍いことから、全体としては弱含んでいる。

○ホームセンターは、園芸用品やペット用品等に動きがみられるものの、日用品等の動きが鈍いことから、全体としては弱含んでいる。

〔主なヒアリング結果〕

«ドラッグストア»
○花粉症対策商品が伸びているほか、取扱いを強化している冷凍食品の売れ行きがよい。

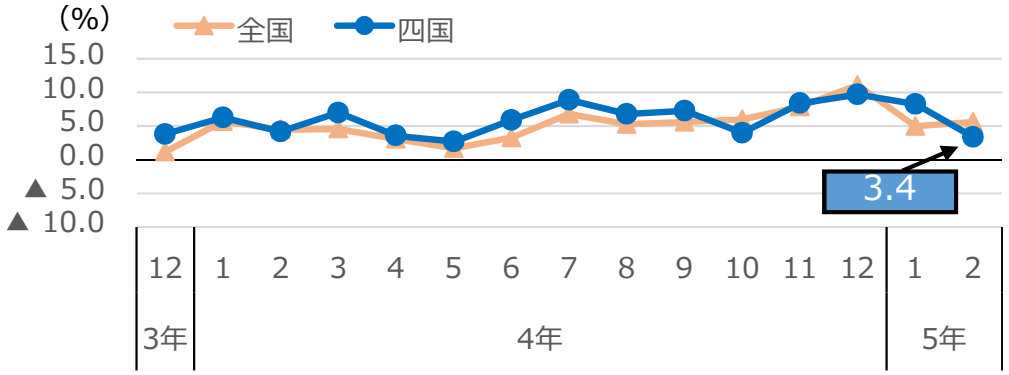
○マスクを外す機会が徐々に増加しており、メイク関連商品に売上回復の兆しがみられる。

«家電大型専門店»
○省エネ性能が高く家事の省力化にも資する高付加価値商品の需要が高まっている一方、生活様式の変化によってテレビやレコーダーの動きが鈍い。

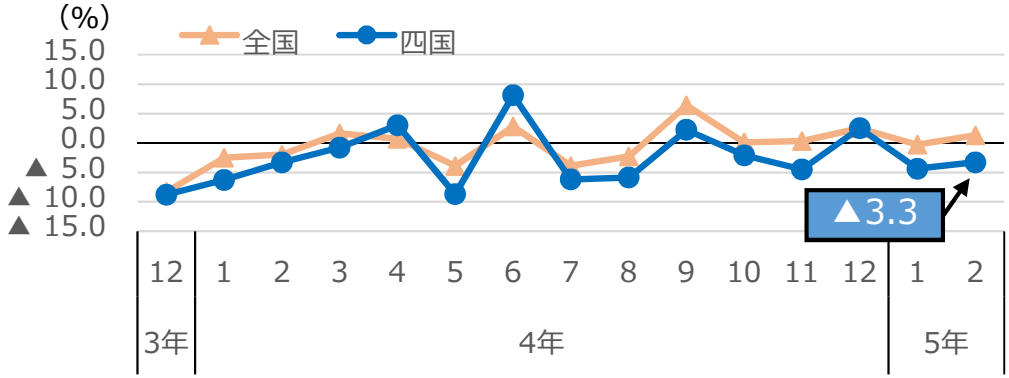
«ホームセンター»
○コロナ禍で外出できなかった時期に、ガーデニングを始めた方やペットを飼い始めた方が多く、園芸用品やペット用品の需要が定着しているほか、全国的な強盗事件を受けて防犯グッズが伸びた。

○ドラッグストアやスーパーなど他業態との競合が激しく、洗剤やトイレットペーパーの売上が減少しているほか、除菌ティッシュについても、感染症への警戒感が薄まったことで売上が落ちている。

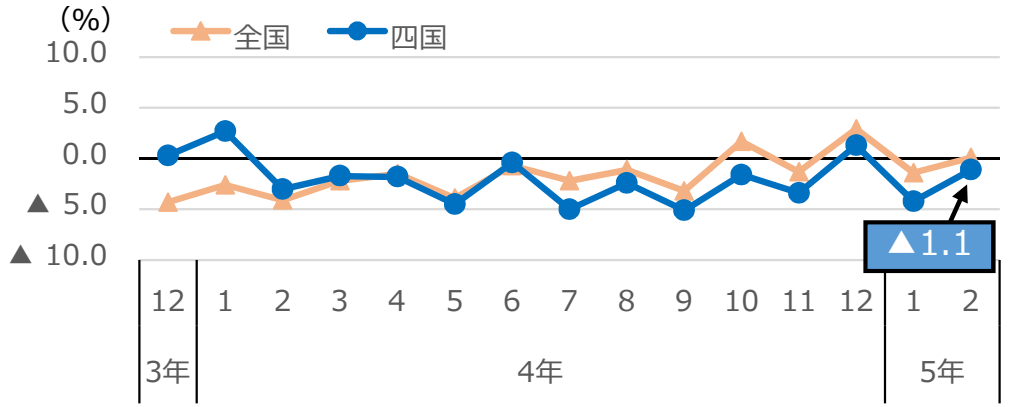
〔ドラッグストア販売額（前年同月比）〕　（注）全店舗ベース



〔家電大型専門店販売額（前年同月比）〕　（注）全店舗ベース



〔ホームセンター販売額（前年同月比）〕　（注）全店舗ベース



【出所】経済産業省、四国経済産業局

個人消費

○百貨店は、来店客数が回復傾向にあるなかで、衣料品等に持ち直しの動きがみられるなど、全体としては緩やかに持ち直しつつある。

○乗用車の新車登録・届出台数は、普通車、小型車、軽乗用車のいずれにおいても前年を上回っている。

○観光は、団体客や外国人旅行客の増加がみられ、緩やかに回復しつつある。

○国内旅行は、全国旅行支援の効果などにより持ち直しており、海外旅行は、水際対策の緩和により持ち直しの兆しがみられる。

〔主なヒアリング結果〕

«百貨店»
○感染拡大の落ち着きを背景にシニア層の来店客数が戻ってきているほか、催事が好調で来店客数全体が増加。外出機運の高まりなどから衣料品やハンドバッグ等に動きがみられる。

«乗用車»
○受注は新型車発売の効果により比較的好調に推移しており、消費者物価の上昇による買い控えはみられていない。

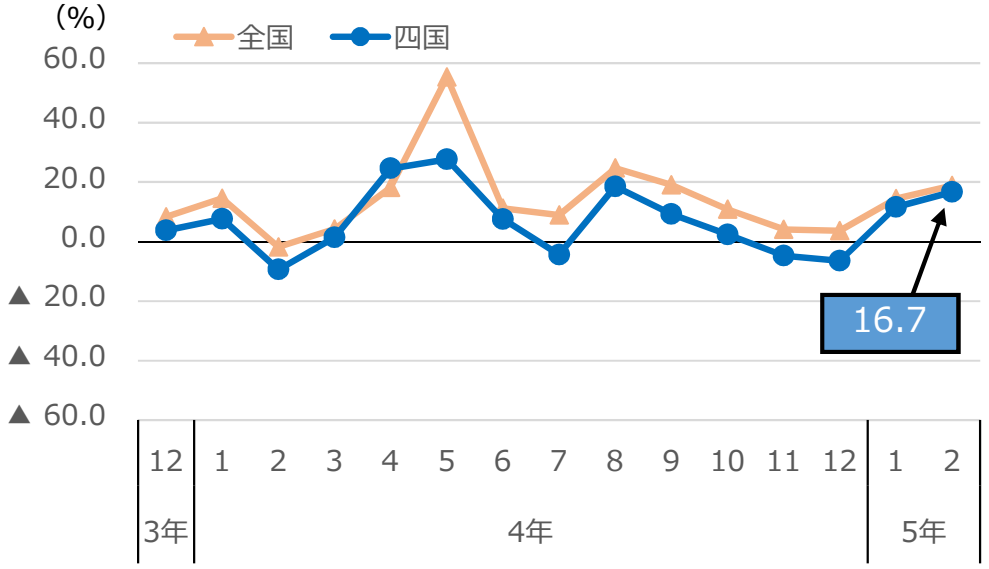
○半導体不足などによる生産制約の改善により、登録台数が回復しつつある。

«観光»
○大都市圏からの団体客が多くなっているほか、国際線の再開により外国人旅行客も増加している。

○宿泊者数は、全国旅行支援の効果もあってコロナ前の水準に近づいている。

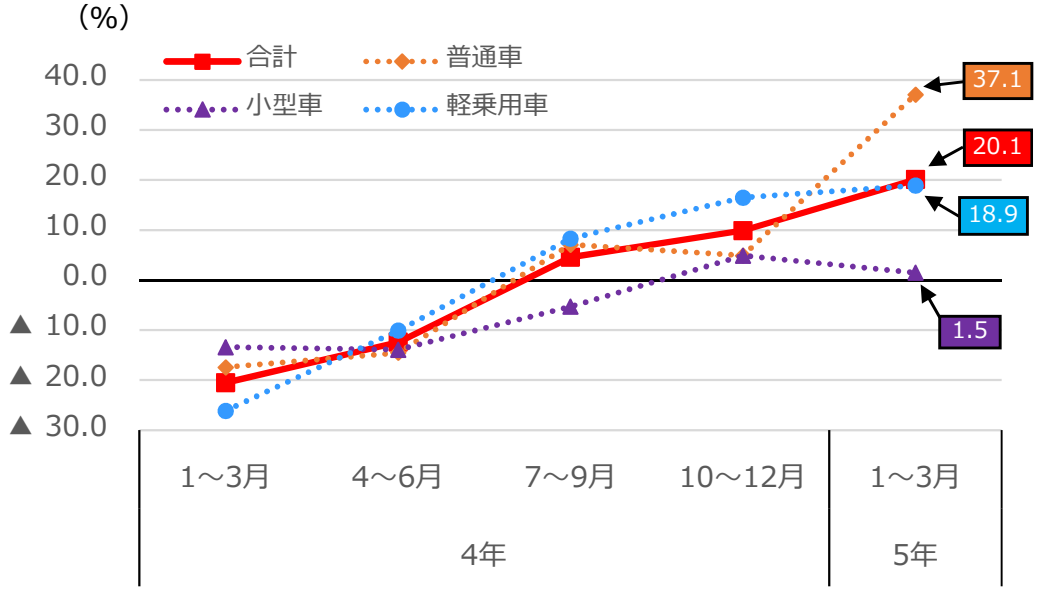
«旅行»
○割引率の低下後も全国旅行支援が旅行需要喚起の要因となっているほか、ウィズコロナの浸透もあって旅行者数は順調に回復している。

〔百貨店販売額（前年同月比）〕　（注）全店舗ベース



【出所】経済産業省、四国経済産業局

〔四国の乗用車新車登録・届出台数（前年同期比）〕



【出所】四国運輸局の公表データから算出

生産活動

生産活動
弱含んでいる

（2期連続下方修正）

○化学は、一部に受注の減少がみられることから、足踏みの状況にある。電気機械は、電子部品に弱さがみられることから、弱含んでいる。パルプ・紙は、印刷用紙等に弱さがみられることから、弱含んでいる。こうしたことから、全体としては弱含んでいる。

〔主なヒアリング結果〕

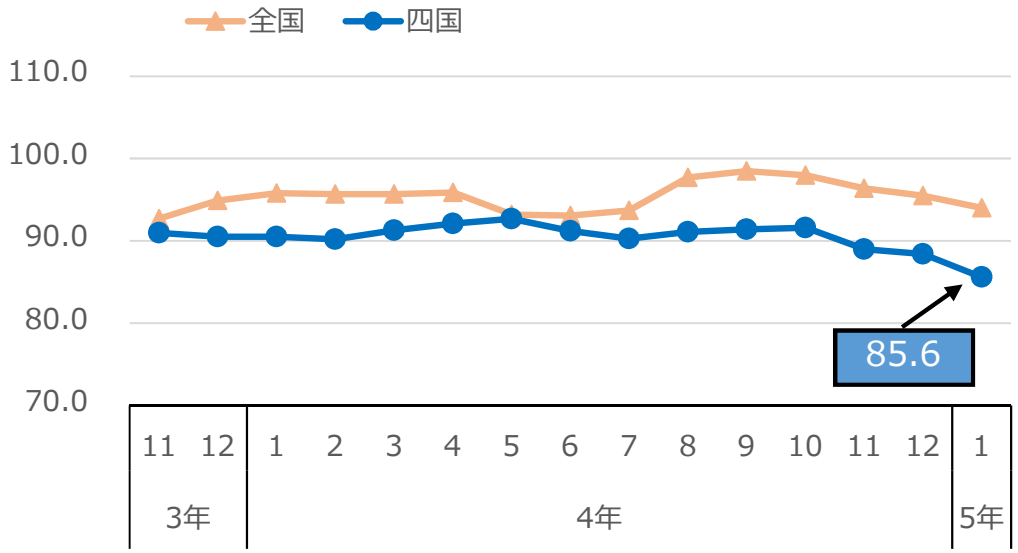
«化学»
○医薬品は、国内需要、海外需要ともに順調であり、生産量は増加している。

○自動車の生産調整を行っていた影響がみられており、生産量は減少している。

«電気機械»
○中国向けのスマートフォン電子部品について、引き続き在庫調整が行われていることから、生産量が減少している。

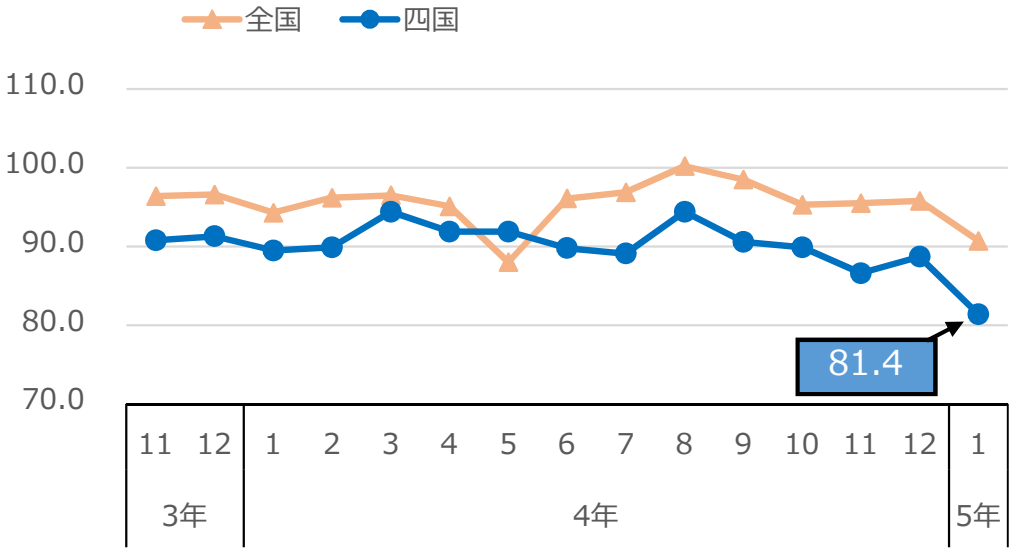
«パルプ・紙»
○チラシやカタログのペーパーレス化が進んでいるなか、価格転嫁の影響もあり、印刷用紙の需要が減少している。

〔鉱工業生産指数（季節調整済指数、3か月移動平均）〕



（平成27年=100）　【出所】経済産業省、四国経済産業局の公表データから算出

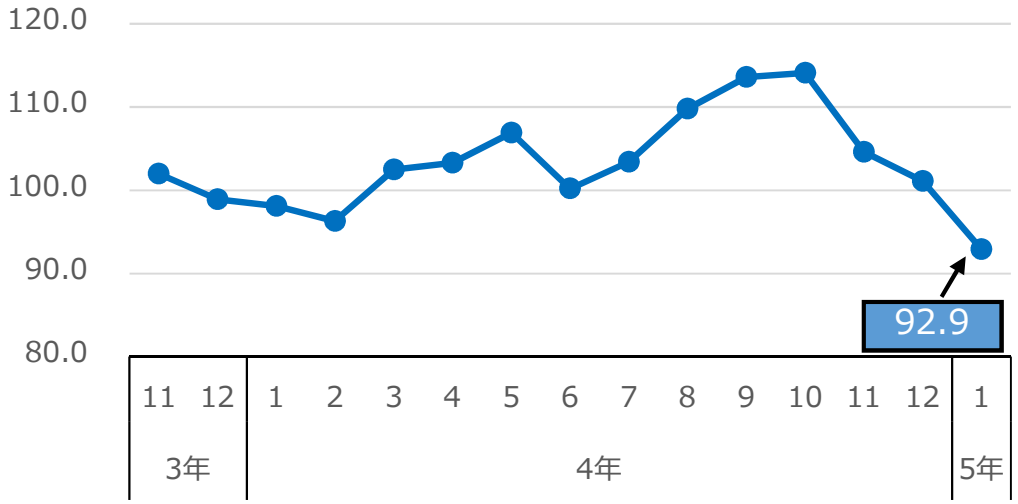
〔鉱工業生産指数（季節調整済指数、単月）〕



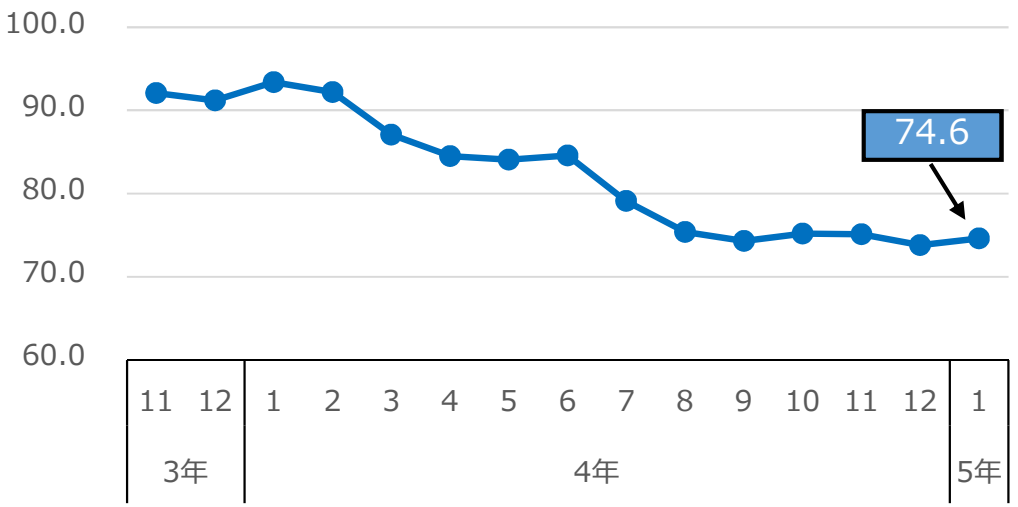
（平成27年=100）　【出所】経済産業省、四国経済産業局

生産活動

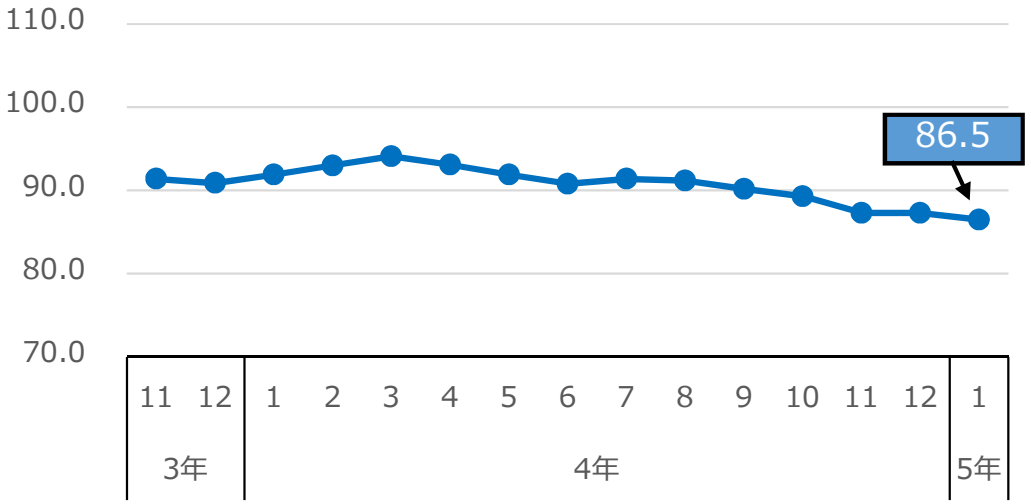
〔化学・石油石炭〕



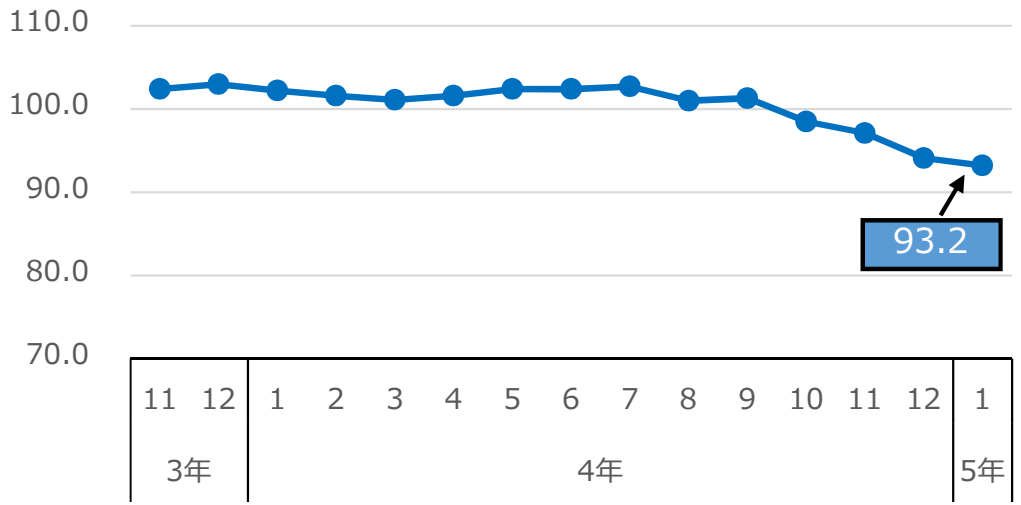
〔電気機械〕



〔パルプ・紙〕



〔プラスチック〕



（季節調整済指数、3か月移動平均、平成27年=100）【出所】四国経済産業局の公表データから算出

雇用情勢

雇用情勢
緩やかに持ち直している

（2期連続据え置き）

○有効求人倍率はこのところ低下しているものの、新規求人数は前年を上回っており、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

〔主なヒアリング結果〕

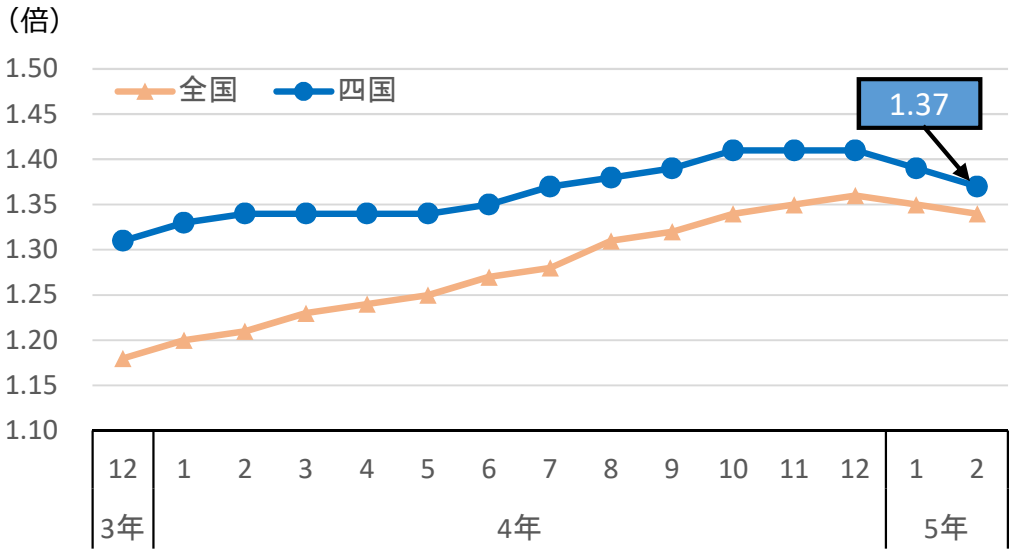
«労働局»
○有効求人倍率の低下は、求人提出時期のずれや、前年の大型求人の反動などによるものであり、人手不足の傾向は続いている。

○感染症の影響緩和や物価高などから、高齢者等の求職活動が活発になっている。

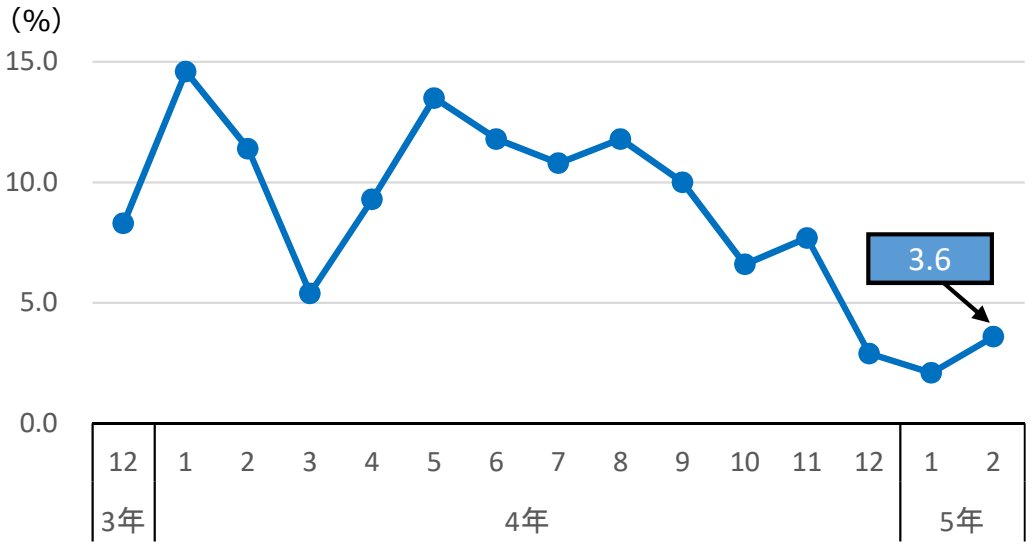
○旅行客の増加から、人手不足感が高まっている宿泊業で求人数が増加している。

«食料品製造業»
○原材料価格の高騰により厳しい状況が続いているものの、人員を確保するために今年度はベースアップを実施する予定である。

〔有効求人倍率（季節調整値）〕



〔四国の新規求人数（原数値、前年同月比）〕



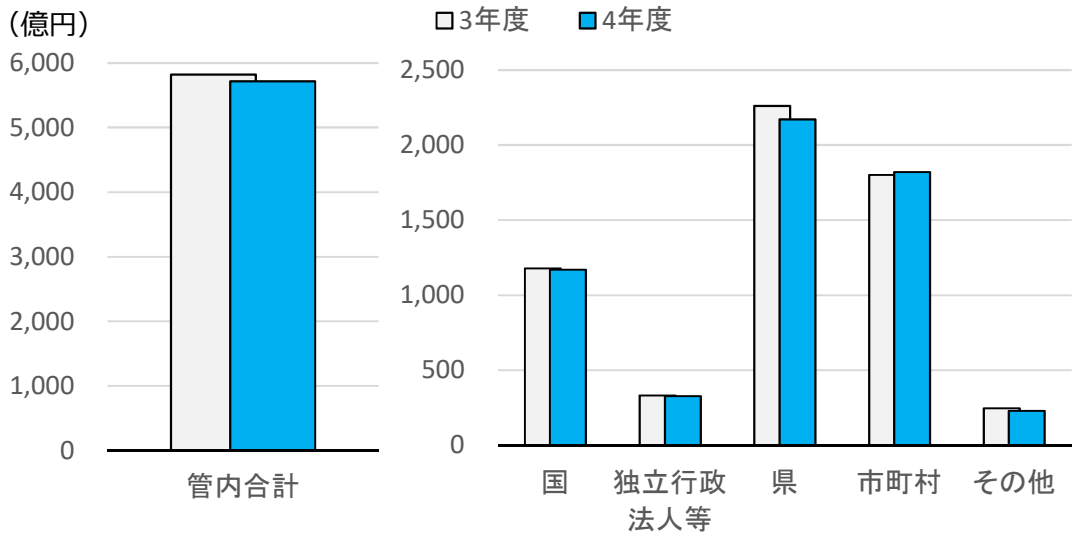
【出所】厚生労働省の公表データから算出

公共事業・住宅建設

公共事業
前年度を下回っている

○前払金保証請負金額でみると、市町村は前年度を上回っているものの、国は前年度並みとなっており、独立行政法人等及び県は前年度を下回っていることから、全体としても前年度を下回っている。

〔四国の公共工事前払金保証請負金額（3月累計額）〕



【出所】西日本建設業保証（株）等

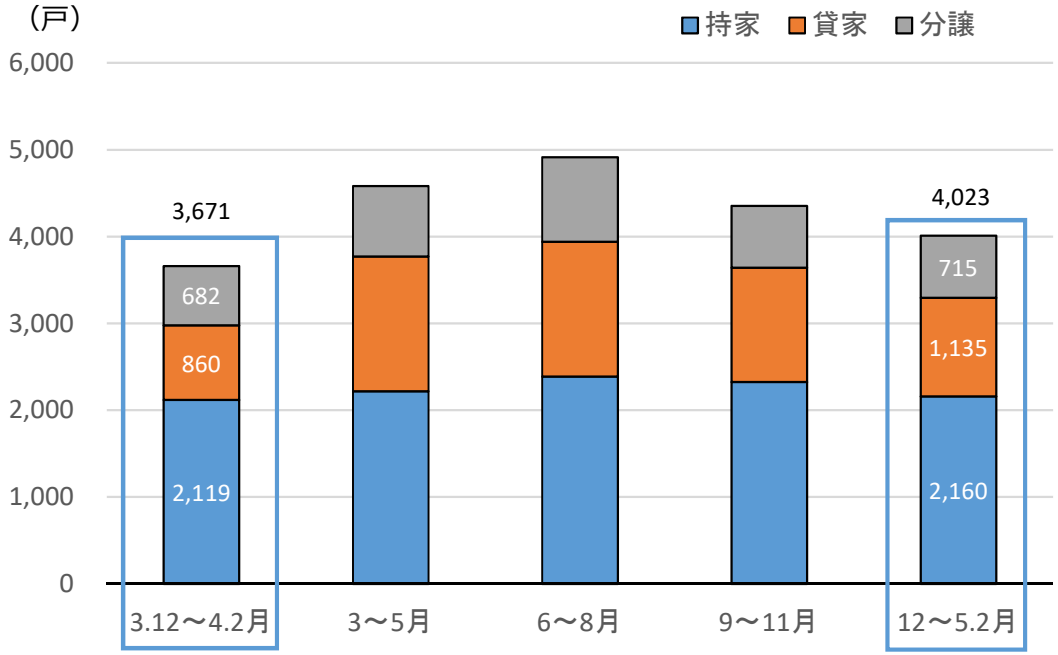
住宅建設
前年を上回っている

○新設住宅着工戸数でみると、持家、貸家、分譲のいずれにおいても前年を上回っている。

〔主なヒアリング結果〕

○住宅価格の上昇などによって購入を控える動きは続いているものの、貸家については、相続税対策や古い物件の建て替え需要がみられる。

〔四国の新設住宅着工戸数〕



※合計は給与住宅を含む

【出所】国土交通省の公表データから算出

設備投資・企業収益・企業の景況感

設備投資

4年度は前年度を上回る見込み

○4年度の「設備投資」は、製造業で前年度を下回る見込みとなっているものの、非製造業で前年度を上回る見込みとなっており、全体としても前年度を上回る見込みとなっている。

企業収益

4年度は増益見込み

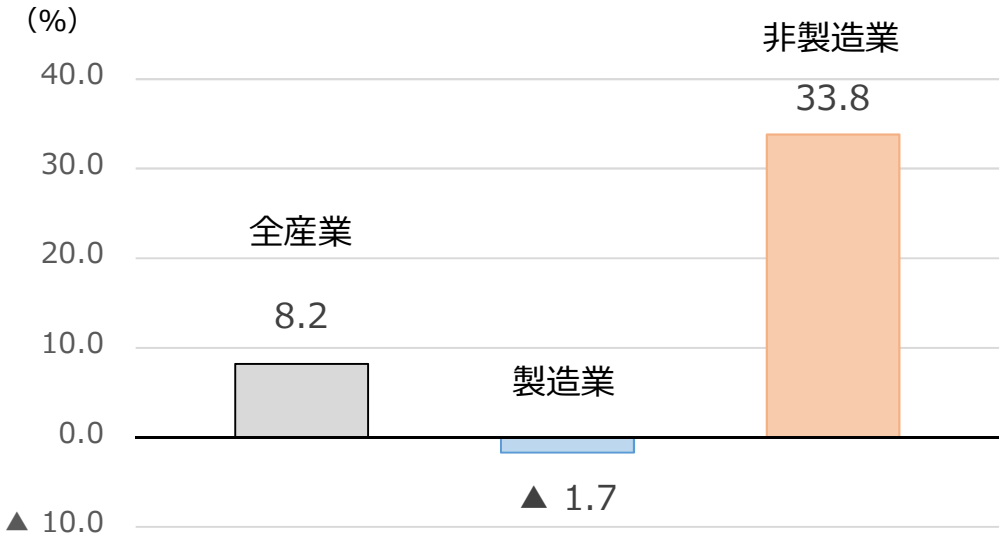
○4年度の「経常利益」は、製造業及び非製造業で増益見込みとなっており、全体としても増益見込みとなっている。

企業の景況感

「下降」超

○5年1～3月期は、製造業及び非製造業で「下降」超となっており、全体としても「下降」超となっている。

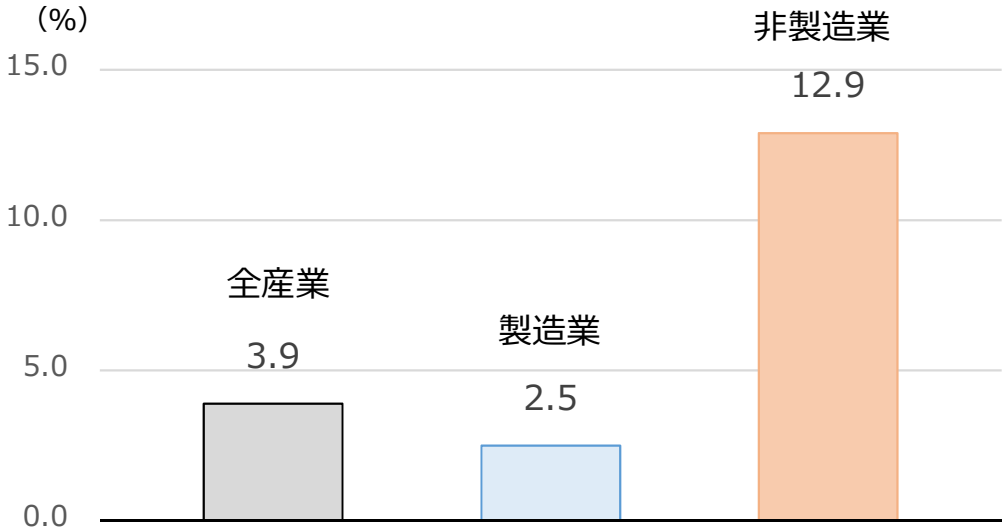
〔設備投資（四国、前年度比）〕



※5年1～3月期調査の結果

※ソフトウェア含む、土地除く

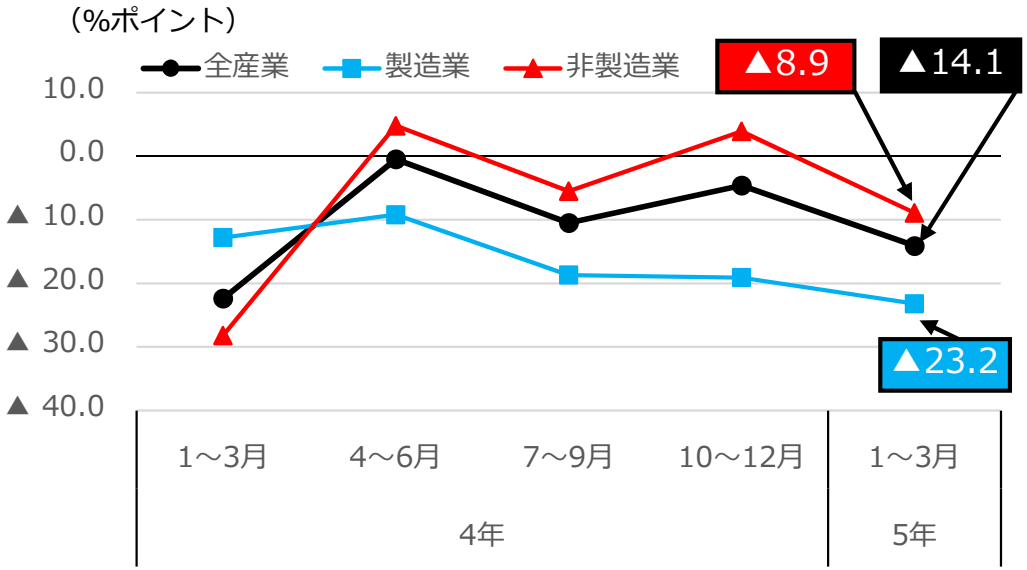
〔経常利益（四国、前年度比）〕



※5年1～3月期調査の結果

※ 「電気・ガス・水道」、「金融、保険」を除く管内に本社が所在する企業

〔企業の景況判断BSI（四国）〕



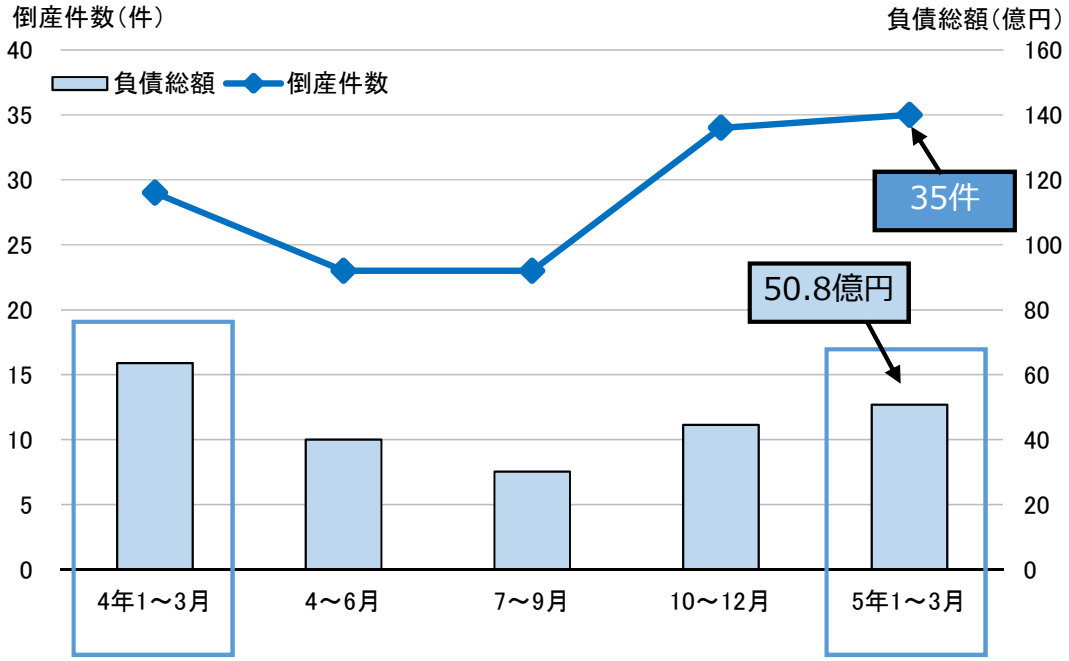
【出所】四国財務局（法人企業景気予測調査）

企業倒産・消費者物価（参考）

企業倒産
件数は前年を上回っているものの、
負債総額は前年を下回っている

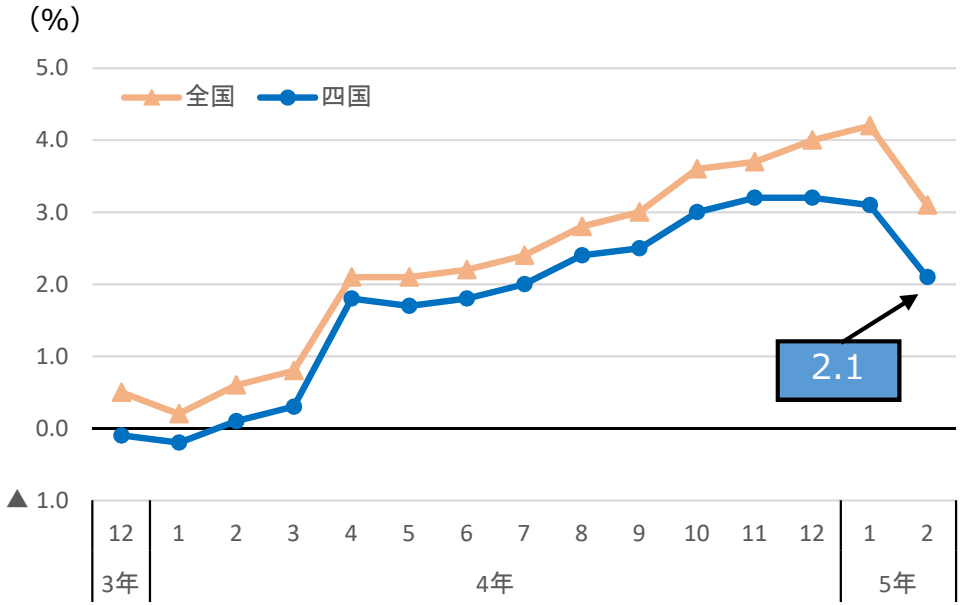
消費者物価
前年を上回っている

〔四国の倒産件数・負債総額（負債額1,000万円以上）〕



【出所】東京商工リサーチの公表データから算出

〔消費者物価指数（生鮮食品を除く総合、前年同月比）〕



（2020年＝100）　【出所】総務省

※計数は、季節調整替え、基準改定、速報の確報化、誤計数の判明等により、過去に遡って訂正される場合があるので、利用される場合は、各発表機関の直近の公表データをご確認ください。

■お問い合わせは
電話番号　087-811-7780
財務広報相談室（内線260）又は　経済調査課（内線250）へ

ホームページアドレス　https://lfb.mof.go.jp/shikoku/